

第98回CIS研究所パートナー会議事録(一般様用)

開催日: 2020年7月26日(日)
場 所: CIS会議室
講 師: 中尾 元一 様

テーマ: 慈恩寺の歴史

今日のテーマは、中尾氏の自宅地域社会へ献活動の一部の報告である。

1) 慈恩寺の歴史 :幕府直轄であった。



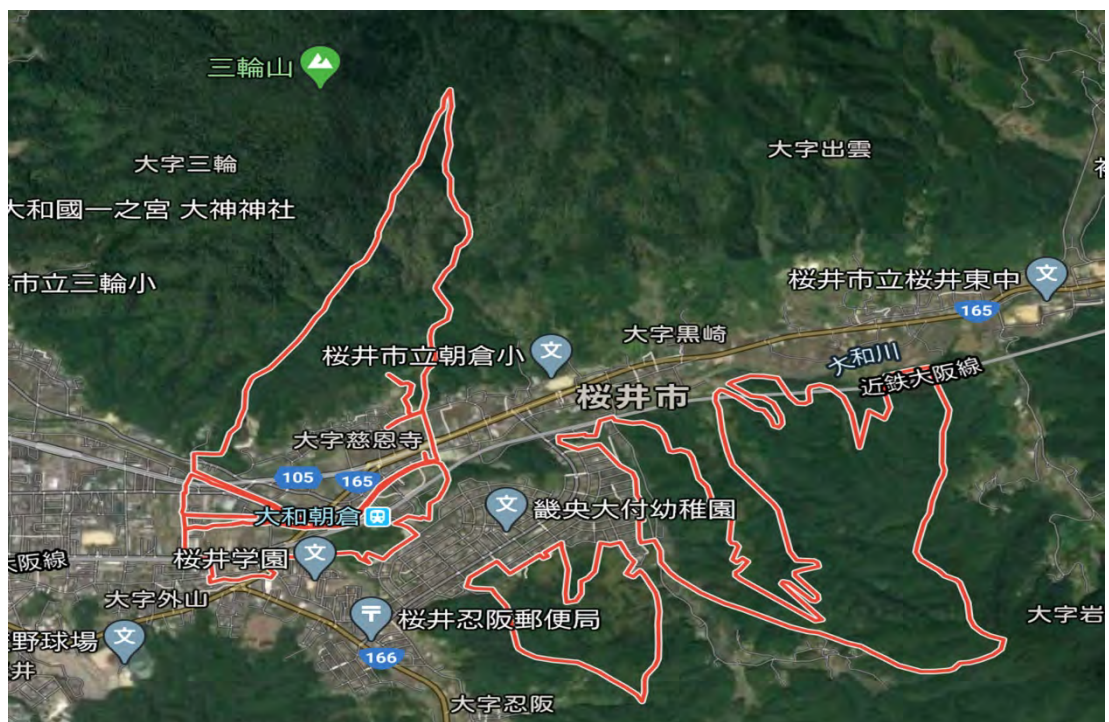
会議風景

慈恩寺(村)

幕府直領:744石9斗7升4合

慈恩大師がこの地に曹洞宗を開き、寺塔建設したことから、慈恩寺の地名の元になっているようである。

現在の慈恩寺
(赤線囲い部)



慈恩寺の場所: わらしべ長者会資料より転載

隠国の初瀬谷「わらしべ長者の里」

芝村騒動(1万石) 後期 大和朝廷の地

芝村藩の移転に伴い 逼迫した財政確保のため 天領地の預り地を増やし、約10万石に達しましたが年貢の負担増を断行し、1753年に農民一揆(芝村騒動)が発生しました。農民は大きな犠牲者を出したものの、幕府は藩に預り地返上の裁定を下し、年貢は軽減されました。

一時、都が河内に遷都されますが5世紀になると、地気が満き出る竜脈の地、初瀬川の畔に 後期大和朝廷が開かれました。

- ★第2代 雄略天皇(石槌朝倉宮・藤本春日神社)
- ★第25代 武烈天皇(白瀬列城宮・十二柱神社)
- ★第29代 舒明天皇(磯城嶋金刺宮・金屋長谷川)

明和の春 大和

田舎者の本居官長一行6人が わらしべ長者の里を訪れたのは桜の花が咲く明和9年[1772年]のことでした。このことは菅守日記に綴られています。官長のご両親が 子供祈願のため吉野の水分(みくまの)神社(身ごもりに通じる)に詣で 官長を授かったことより、それで 予て官長にお慶参りをするように伝えていました。

3月5日に旅立ち、榛原の油屋で宿泊し、3日目の旅立ちには 生憎の雨模様で、化粧坂を超え初瀬の町を過ぎた頃には 漸く雨も上がり、出雲・黒崎に至り、途中で雄略・武烈天皇の宮跡に思いを馳せる旅でした。この日は 吉野の千原(ちまた)までの約40kmの道のりでした。記紀万葉のふる里の旅を終え、古事記伝の編纂を手掛け、初取を発行したのは、漸く1790のことでした。古事記伝により、私達は、大和朝廷の地を知り、改めて桜井市が大和朝廷の地であると分かるようになりました。

野見宿禰のふる里

日本書紀によりますと、垂仁天皇7年に呼び出した野見宿禰は 明るく白鳩力の地に現れ、当麻理速と戦い、宿禰が勝利しました。このことより、宿禰は桜井市出雲に居たと思われています。出雲には、宿禰の元五輪塔の位置から 菅原道真の祖とする 與喜天満神社を仰ぐ位置にあります。

それからは 物々交換の代名詞として「わらしべ長者」が使われるようになりました。【今昔物語集による】

桜井市 記紀万葉歌碑

歌番号	歌文	歌名	歌人
31	苦しくも 降り来る雨か 三輪の崎 狭野の渡りに 家もあらなくに	長 奥麻呂	[本 誠二]
32	治羅川 早み早業を むすび上げて 鹿かず今縁と 問ひし君はも	詠 人知ず	[原 利文]
33	磯城島の 大和の国は 言葉の 助くる国ぞ まさくありこそ	柿 本人原呂	[平 澤 澄]
34	夕さらば 小倉の山に 伏す能し 今夜は鳴かず 寝ねにけらしも	雄略天皇	[平 澤 興]
35	鹿もよ み籠持ち ふくしもよ みふくし持ち この間に 菜摘ます兒	雄略天皇	[保 田 與重郎]
36	家吉らせ 名吉らさね そらみつ 大和の国は 押しなべて 我こそ	柿 本人原呂	[堀 口 大 一]
37	居れしきなべて 我こそいませ 我こそば 吉らめ 家をも名をも	紀 悪人	[宇 野 精一]
38	こもりくの 首瀬の山の 山にまに いさよう雲は 縁にかもあらむ	詠 人知ず	[林 武]
39	若走り 雲ち流るる 首瀬川 絶ゆることなく またも来て見む	大伴坂上郎女	[里 見 彌]
40	こもりくの 首瀬の山に 照る月は 満ち欠けしける 人の常なき	但馬屋女	[阿 波 野 青 歌]
41	降る雪は 繁み言輪み 己が世に いまだ渡らぬ 朝川渡る	穂積 皇子	[今 日出海]

大和さくらい 100選

- 記紀万葉 ゆがりの地
- ビューポイント
- パワースポット
- 食・伝統・芸能

慈恩寺の場所 ↓この地域です

慈恩寺の場所 ↓この地域です

この地図は、桜井市の中心部と周辺の地域を示しています。主要なランドマークとして、**慈恩寺** (Jion-ji) が示されています。また、**玉列神社** (Tamatsukuri Shrine)、**磯城嶋金刺宮跡** (Iseki-uma-ikimiyasu site)、**追分の辻** (Suibun no Tsumi)、**初瀬谷の風情** (Seta Valley Atmosphere)、**素盞鳴神社** (Susano no Shrine)、**天誅組慰霊の墓碑** (Tenjūgumi Reien no Kaifu) などの場所も明確に示されています。地図には道路網、川、山脈（外鎌山）も描かれています。

大和朝廷の地・桜井市

2世紀後半の日本

魏書巻30の東夷伝・倭人によると、倭国(日本)は小さな部族に分かれ 互いに争っていたとあります。

3世紀に至り

一人の女王【卑弥呼】を共立し、漸く動乱が治まった。彼女は鬼道で国を司り、やがて魏に使者を送り、親魏倭王に任じられました。

この国・邪馬台国には7万余戸(30-40万人)が住んでいました。

卑弥呼が亡くなると、神仙思想に基づき蓬莱山を摸し、大きな塚[径百余歩:150m]を造り、御魂の永遠を祈りました。

箸墓古墳[後円部:156m全長276m]卑弥呼の墓に比定(宮内庁が治定;大市墓)

3世紀後半～

卑弥呼が亡くなり、三輪山を祭神とする三輪王朝が後を引き継いでいます。

第10代 崇神天皇 運命の赤い糸伝説

宮跡 磯城瑞垣宮[伝承地 桜井市金屋:志貴御懸坐神社(しきみあがたにますじんじゃ)]

第11代 垂仁天皇(すいにんてんのう) 邪馬台国の地

宮跡 纏向珠城宮跡(まきむくたまきのみやあと)[伝承地 桜井南穴師付近]

第12代 景行天皇

宮跡 纏向日代宮[伝承地桜井南方師付近]

5世紀 気が湧出地・隠国の初瀬谷

一時、河内にあった都が 初瀬の地・大和に戻ります。

第21代 雄略天皇 宮跡 泊瀬朝倉宮[伝承地 桜井市脇本:春日神社]

第25代 武烈天皇 宮跡 泊瀬列城宮[伝承地 桜井市出雲:十二柱神社]

第29代 欽明天皇 宮跡 磯城嶋金刺宮[伝承地 桜井市金屋]

桜井市には13の宮跡(上記6都の他)があります

磐余若櫻宮[仲哀天皇・神助皇后] 磐余稚櫻宮[履中天皇] 磐余玉穂宮[継体天皇]

訳語田幸玉宮[敬遠天応] 磐余池辺雙槻宮[用明天皇] 倉梯柴垣宮[崇俊天皇] 百濟宮[舒明天皇]

崇神天皇期 古事記[崇神の条] 運命の赤い糸縁結び～赤糸の小道

<http://www.eonet.ne.jp/~akaito/>

垂仁天皇期 日本書紀[垂仁7年の条] 相撲柔道の祖 掬力の地・勝利の聖

<http://www.eonet.ne.jp/~akaito/shouri-hijiri/index.html>

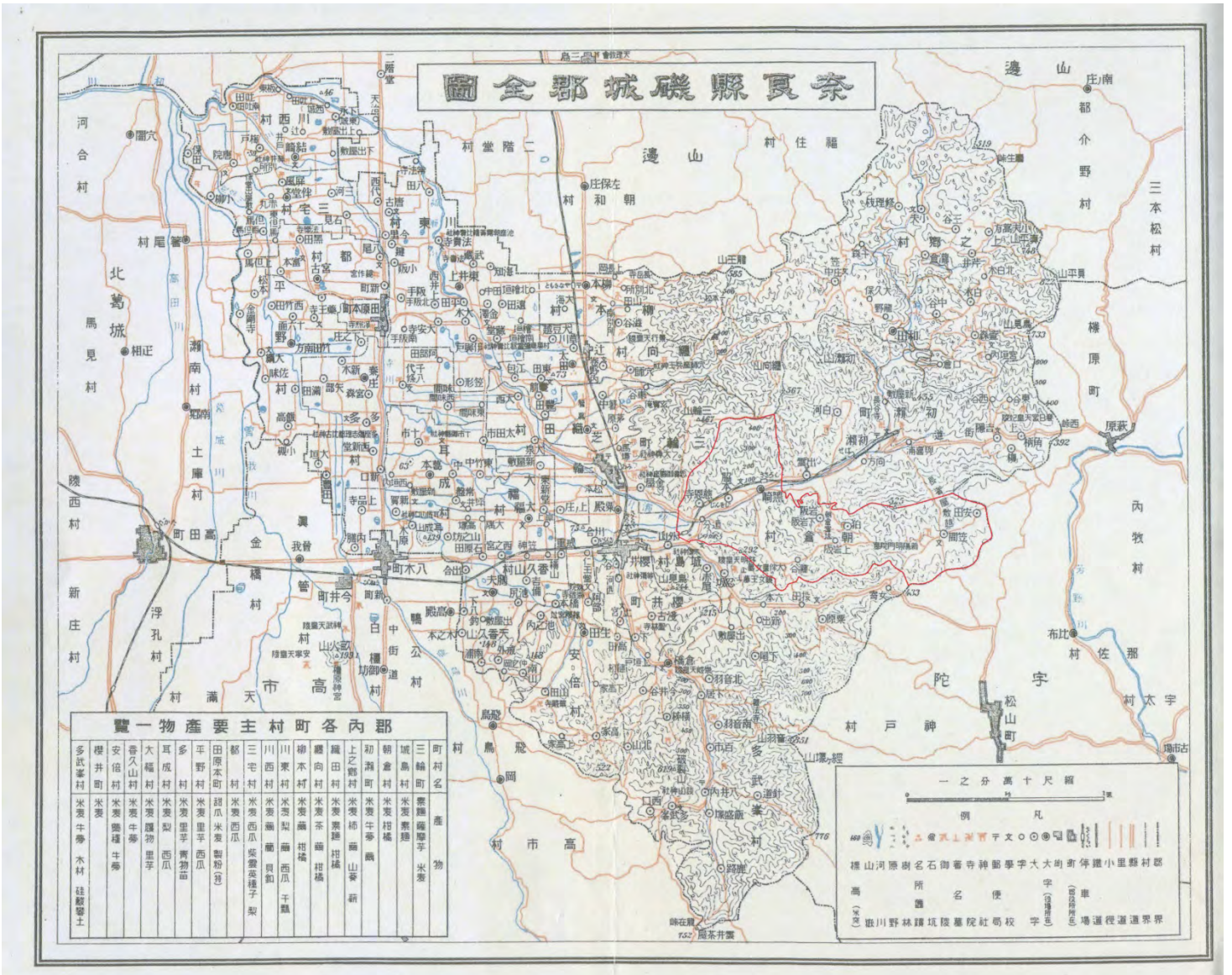
景行天皇期 日本書紀[景行53年の条] 阿倍の本貫 料理人のふる里

<http://www.eonet.ne.jp/~akaito/ryori-kami/index.html>

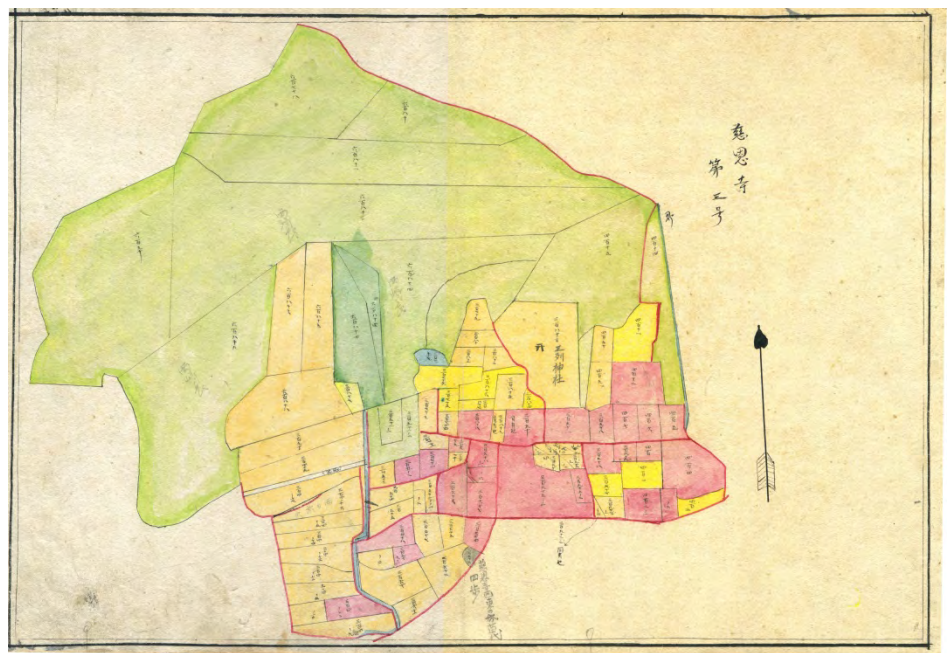
後期大和朝廷期 今昔物諸葉 隠国の初瀬谷 わらしべ長者の里

<http://www.eonet.ne.jp/~akaito/warasibechoujya/>

旧朝倉村(地図赤線領域内) 大正時代の地図
 奈良県磯城郡朝倉村
 522町余、戸数400戸余



慈恩寺の古い地図の例



慈恩寺の旧史跡

- 佐野の渡し:上街道の初瀬街道と分岐する所で、俗に追分と呼ばれている。
- 天誅組浪士の墓:前田 繁馬、関 為之助が、藤堂藩士に捕らえら斬首されたのを、慈恩寺墓地内に祀っている。
- 玉列神社:大物主の子、玉列王子命を祀っており、大神神社の境外摂社とされ、その後境内摂社になっている。
- 素盞鳴神社神社:本殿背後に大岩盤が突出しており牛頭天王を祀っており、7月7日の祭典は祇園さんと呼ばれている。
- 阿弥陀堂:玉列神社東側にある元玉列神社の神宮寺である。薬師如来坐像(宇陀の松山城主織田氏から贈られたもの)、12神将12体が祀られている。
- 常夜灯:慈恩寺東の端に、南側 天保2年(1831)卯年9月吉日、大庭氏の銘、北側 天保2年の銘がある常夜灯があり、西の端には、万延元年(1860)建立の水神を祀る刻銘された常夜灯がある。この時期はお蔭参りという伊勢参りが流行って、文政13年(1860)の総人員数は486万人と伝えられている。
- 慈恩寺には多くの寺坊があったようで、七間堂、門戸、中倉、油田等の地名が残っている。

地名となっている、慈恩寺は干坊寺川上流部にあったようであるが、南北朝時代に、西阿公(と呼ばれている)が南朝側に組して、外鎌山に城を築いて戦ったとのことである。その後、北朝側に追いやられて、たくさんの坊が無くなってしまったのではないと思われる。

寺の跡等が残っていない。呼び名が残っているだけである。

慈恩寺の跡は、慈恩寺の東北方、三輪山中腹の開墾地(字北山)にあったようである。大和史・大和名所図絵等にも記載があり、初瀬谷一番の古い寺出会ったようである。

佐野の渡し

佐野橋と新佐野橋

手前が、佐野橋

向側が、新佐野橋

初瀬川が、初瀬谷を出て、奈良盆地で広がるところ。この向こう側がかつては湿地帯となっていたそうである

難波からの横大路、北からの上つ道が交わり、上つ道が初瀬街道と分岐する所に有った地点で、追分とも呼ぶ



天誅組

幕末の文久3年8月17日に
尊皇攘夷派浪士が決起した事件。

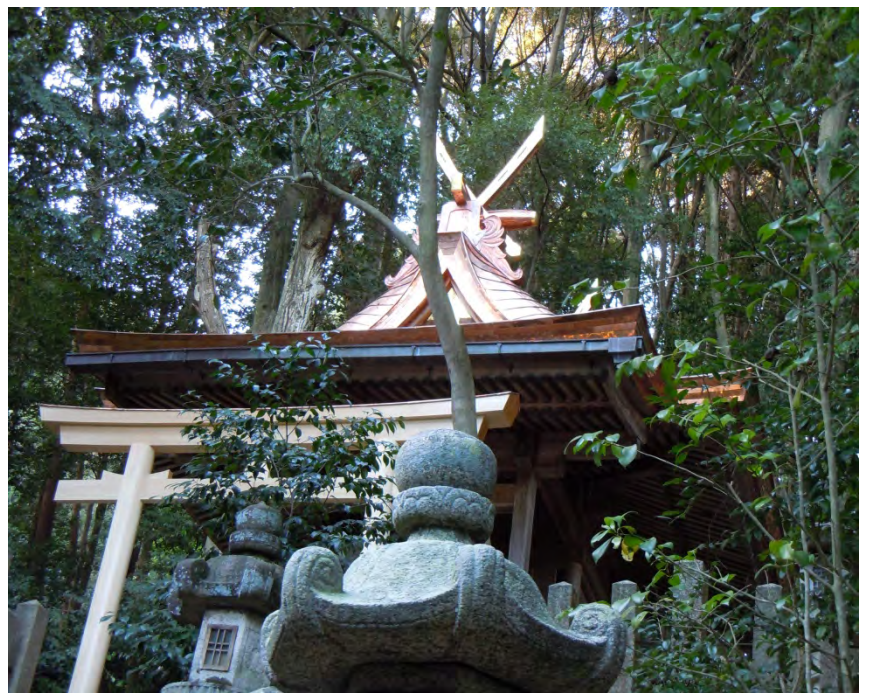


前田 繁馬、関 為之助が、東堂藩士に捕らえられ、斬首されたが、地元住民が慈恩寺墓地内に葬り
その後、明治29年に墓地の周囲に玉垣を設けて吊った。慈恩寺には、正木(ショウギ)という地名があるが、ここは昔の仕置場と伝えられている。シオキバ が ショウギ と変わったのか？

墓地の登口には、天誅組烈士の墓 の石碑が(大正7年5月銘有) 建てられている。
天誅組浪士の墓は、吉野地方から、宇陀の奥(鷲家口)方面の各地に残されています。

玉列神社

本殿改修、本殿前鳥居の建替え



玉列神社は、大神神社の祭神 大物主命 の御子神である玉列王子を祭神としており、大字慈恩寺の氏神出会ったが、明治10年3月に三輪大神神社の境外摂社となり、その後境内摂社となった延喜式

内社である。

延喜式内社:延喜式(延長5年 957年)の神名帳に記載されている神社
本殿の屋根の檜皮葺を平成30年に、銅板葺で拭き直し、本殿の補修を実施。

初瀬谷の神社としては、歴史が一番古い神社。

境内には、祓戸社、金山彦神社、猿田彦神社、愛宕神社がある。

参道から本殿までに、石灯笼20基、石造狛犬4基がある。

万治3年(1660年)、万治4年の寄進と刻印ある。

石階段の耳石には、元禄2年(1689年)大阪北浜茨木屋右兵衛寄進の刻印ある。

この神社の例祭は、毎月12日に執り行われており、10月11、12日が秋祭りの日となっている。

素盞鳴神社神社

本殿の鯉木固定、脇障子取付を行い、傾きを修正。



本殿改修を行うべく、宮大工の見積もりを取ったが、新築で約400万円の見積もり。本殿高さ約1.8m、幅約0.8mの仕様で、鯉木2本、脇障子を備えた現行通りのものでの見積もり。

この地元には、世界的に有名な寺社建築会社があり、この社長の検分では補修でも今しばらくは保つという見解より、部分補修のみにした。

平城宮跡朱雀門、第一次大極殿正殿復原工事、興福寺中金堂復元、長谷寺等の寺社建築工事を行ってきた会社である。

阿弥陀堂

阿弥陀堂前には、樹齢800年の櫟がある。



阿弥陀堂内の仏



薬師如来坐像

弘法大師像

阿弥陀如来坐像:像高87cm、檜材の寄木作り、漆箔仕上げで12世紀前半の製作。

玉列神社の神宮寺で参道東側にある。近年まで、社務所付近に薬師堂があったが、これが廃され薬師如来坐像、12神将12体も阿弥陀堂に置かれている。この薬師如来坐像は、宇陀松山城主織田氏から送られたものとの由緒が伝えられている。

境内には、慶長年間の石仏(2体、慶長8年 1603年)、道標、石碑、等が置かれているが、元は旧街道筋にの追分にあったものと考えられる。

堂の側の石仏

元は追分辺りの辻堂にあったものである。共に、慶長8年(1603年)のものである。



街道筋の常夜灯

天保2年(1831)卯年9月吉日、大庭氏の銘文ある。

慈恩寺の東端で、街道の両側に立っている。

この時期は、お蔭参りと称する伊勢参りが流行した時期である。1830年から流行し、486万人が伊勢神宮参拝のため通過したとの記録がある。

この参拝者たちは、各街道筋で物乞いをし、住民たちが施しをした。1石の米を施行したが半時で無くなったという記録ある。



常夜灯

このような常夜灯は、各地に出来た伊勢講の人たちが、火をともしたりして守ってきたもの。伊勢講の方々が、常夜灯を遥拝することで、伊勢参りに替えられるような考え方に変わってきたようである。

最近まで、伊勢講という組織が存在した。

最近までの伊勢講は、裕福な家庭の方々が集まり常野党の世話をすると共に、定期的に食事を共にして楽しんだようである。

風日待ち、庚申講、等の各種講が出来て、仲間が集まって食事をしながら楽しむという集まりが存在した。(慈恩寺では60年程前まで存在し、今でも寄合と称して会合が続けられている町内もある)

慈恩寺に残っている常夜灯は、3基あるが、2基が天保2年(1830)、1基が万延元年(1860)の銘文がある。

赤井谷不動尊

玉列神社拝殿から東に100m程行った所にある不動尊。
室生山出張所との看板ある。

昔は講があり、祭典、催しを行っていたが、現在は地元の方々が月1回の祭典を行っている。
昭和18年3月に、信仰20年記念碑
が建てられている。



桜本稲荷神社

朝倉台住宅地の開発に伴い、場所を移した神社。元は、朝倉台開発内にあった。
2月の午の日に例祭を催行する。



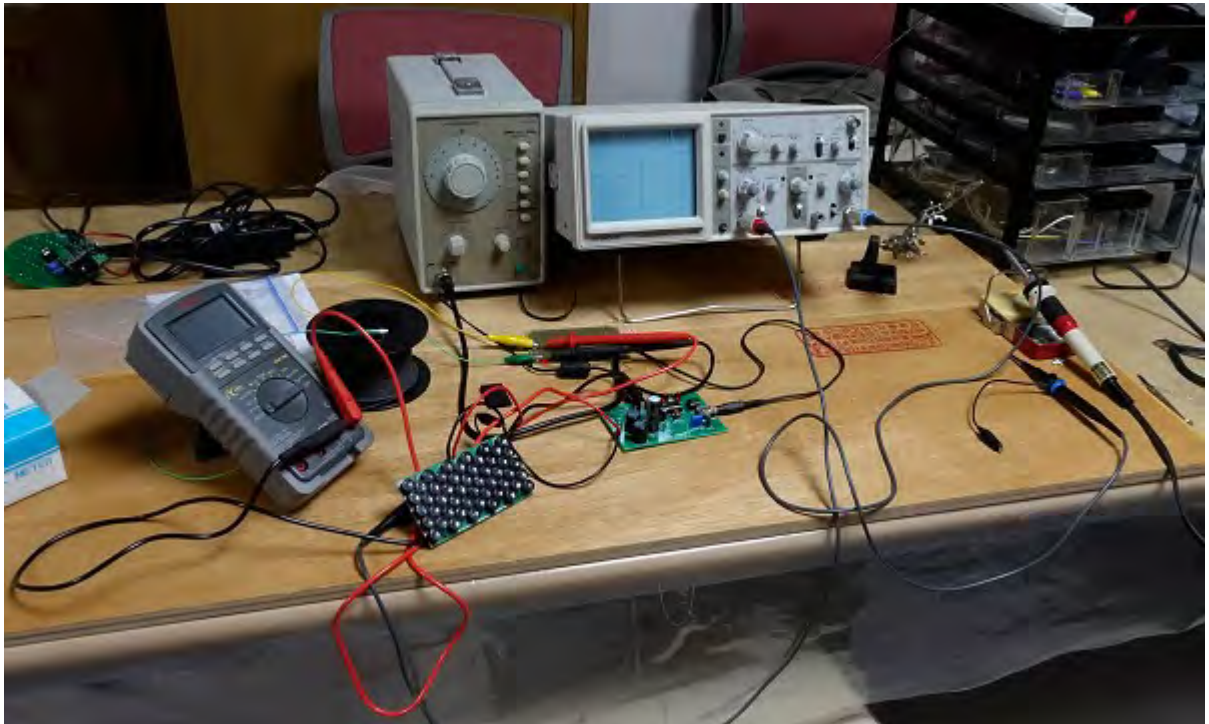
地藏盆

古くからの地藏さんが3カ所に残っており、地元の有志が祭を催行している。子供が生まれると提灯を準備して、地藏盆祭典にお供えして子供の成長を祈願する。 催行日:8月24日



2) 超音波スピーカー 其之二

実験は、スピーカー駆動直前までデジタル信号処理。直列にLを挿入しアナログ駆動している。



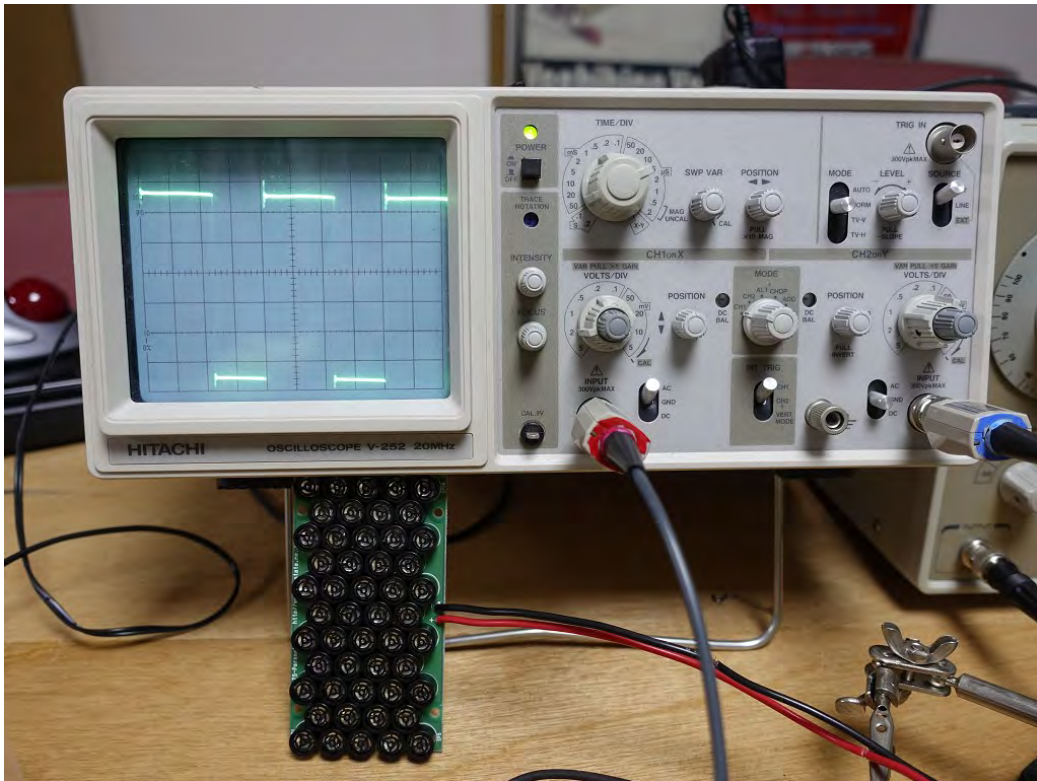
超音波スピーカーはムラタ製のピエゾ型センサー50個を流用



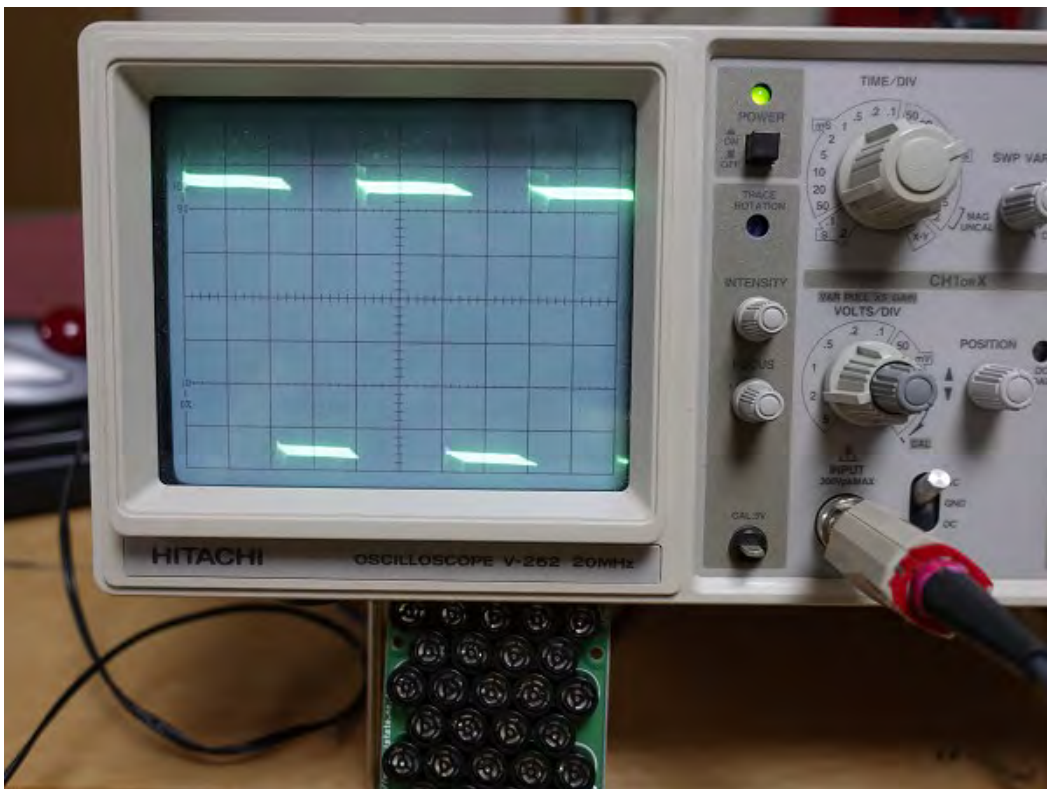
マイクとして使用したFOSTEX T90A HI-FI用のツイーター(40kHz受信感度あり)超音波スピーカーを駆動し、スピーカーの中心とマイクの中心を合わせ測定距離1mで計測。マイクは、40kHzの超音波を搬送波としてサイン波で変調した音を受ける。
結果： 400Hz~20000Hz迄フラット400Hz以下は急激に減少した。
マイクとして使用したツイーターの感度と超音波スピーカー側の周波数特性ともに低減の

傾向があり計測精度が失われたものと思われる。 超音波スピーカ-の垂直横方向特性は約15度で20dB低下するので、きわめて指向性が強い結果が得られた。

Low Pass filter 前段の40KHzキャリア信号(変調無し)波形

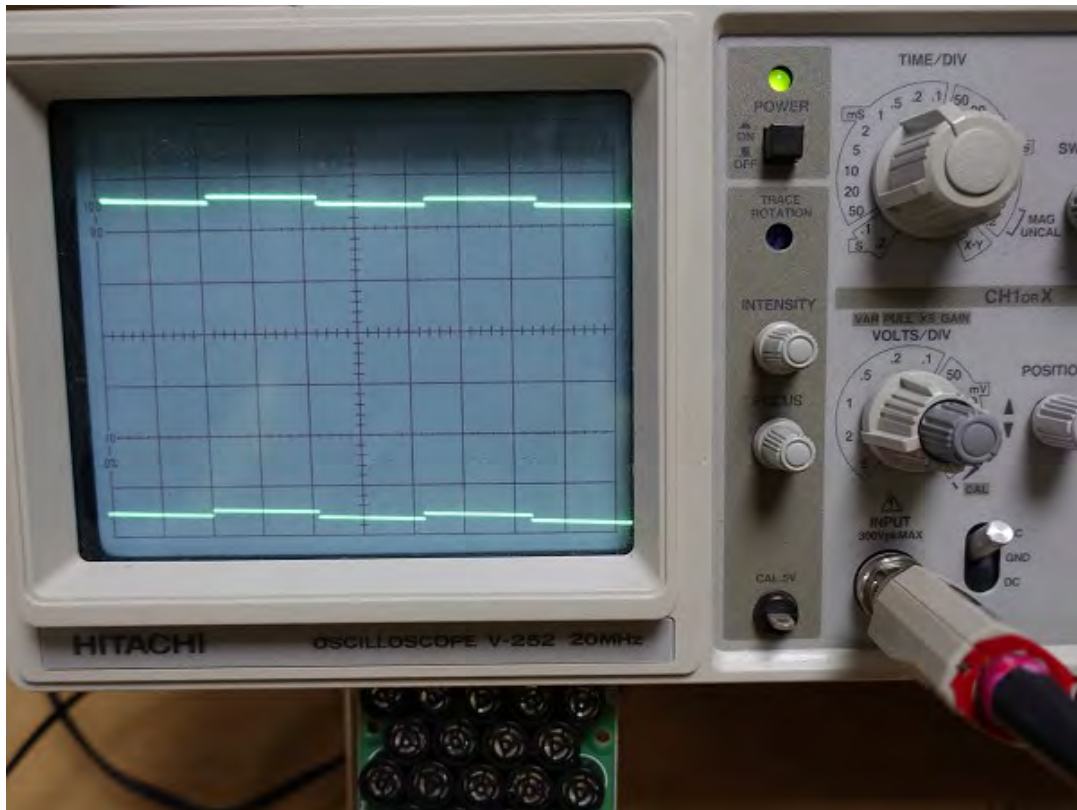


Low Pass filter前段で見たオーディオ信号400Hz矩形波で変調時の波形。



PWM変調を確認(周期から40KHz, 400Hz変調によりPulse Duty 変化がみられる)

Low Pass filterを通過し、超音波スピーカーに行く信号の波形



400HZの変調波が観測された

この40KHzのキャリアを包絡線として400Hzの変調波が観測され超音波スピーカーはPWM信号で駆動されてええいることが理解できる。

実験まとめ:

超音波スピーカーを駆動し、スピーカーの中心とマイクの中心を合わせ測定距離1mで計測。マイクは、40KHzの超音波を搬送波としてサイン波で変調した音を受ける。

測定結果:

- 1) 400Hz~20KHz迄ほぼフラット(サイン波での確認)
- 2) 400Hz以下は急激に減少
- 3) 超音波スピーカーの垂直横方向特性は約15度で20dB低下するので、きわめて指向性が強い
- 4) 音源にJAZZを入れてみると低音が出ないので寂しい音になるが、人の声や、フルートや尺八などはごく普通に聞こえ音質は良い
- 5) 超音波を搬送波としてオーディオ周波数で変調しこれを超音波で飛ばして壁に当てると、超音波の当たった所が音源として聞こえることは確認できた。
- 6) 直接超音波の通り道の中に入って聞くと音が聞こえるがどこでなっているか不明になる。
超音波は聞こえないので超音波が頭に当たった所で生じる非線形が検波作用を形成し元の音になる(可聴周波への復調)ようでおそらくこの場合音源(音の位置)がわからないのは骨伝導で聞こえているからではないかと想像できる。

今回の実験は、極めておおざっぱで概念的な確認実験にとどまっています。

理論上不明点:

超音波をオーディオ信号で変調した信号が超音波ドライバーとして使った超音波スピーカーで作ら

れた縦波が空中を伝達し、壁に当たりオーディオ信号に復調されるメカニズムは理解できていない。変調がPWMでもFMでもAMでも同じ結果が得られているようでこれも理解できていない。

Ponpeiさんを思い出しながら原理再現程度の実験はできましたが音質ははるかに劣るもので音質をよくする方法と上記の疑問点は別途研究課題として残っている。以上ちょっと手の込んだコロナ騒ぎの暇つぶしでした。

(マイクとして使用したツイーターの感度と超音波スピーカー側の周波数特性ともに低減の傾向があり計測精度が失われたものと思われる)

実験担当 山本

HP <http://www.cis-laboratories.co.jp/index.html>

以上